

外国ルーツをもつ若者が

活躍する社会に向けて

共生の方法論

—移民当事者のエンパワーメント—

日時 2017年9月17日(日)

10時半～16時(※17時～:懇親会予定 当日受付)

場所 慶應義塾大学 日吉キャンパス
来往舎 シンポジウムスペース

東急日吉駅

定員 100名
参加費無料
申し込み不要



プログラム ※日本語・韓国語逐次通訳あり

10時～:開場、受付

10時半～12時:講演「移民第二世代のエンパワーメント」

講師 清水睦美氏(日本女子大学人間社会学部教授)

13時～14時:韓国の外国ルーツをもつ若者の支援映像上映

講演「移住背景青少年(外国ルーツをもつ青少年)の

経験からみた多文化社会、韓国」

講師 イ・ジョンウン氏(アジア人権文化連帯事務局長)

14時～16時:シンポジウム「日韓移民ユースの支援を考える」

パネリスト

ジュ・ウォンホ氏(社団法人冠岳コミュニティラジオプロデューサー)

チャ・ウォン氏(アジア人権文化連帯)

チャン・ソワンナリット氏(会社員)

馬場有希氏(小学校教員)

コーディネーター 柏崎千佳子氏(慶應義塾大学経済学部教授)

コメンテーター イ・ワン氏(アジア人権文化連帯代表)

主催: 日韓移民ユースエンパワーメントのためのディーセントワーク推進プロジェクト

問い合わせ先

特定非営利活動法人神戸定住外国人支援センター (KFC)

〒653-0038 神戸市長田区若松町 4-4-10 アスタクエスタ北棟 502

TEL 078-612-2402/FAX 078-612-3052/E-mail kfc@social-b.net



当日連絡 Tel:090-8750-8692

開催の趣旨

アジアの経済先進国(日本、韓国)には、難民として、また就労、結婚といった理由などにより国籍、民族、文化的背景の異なる「移民」が急増している。しかし、移民の多くは、社会的下層に置かれ、教育、就労の機会においても不利な状況に置かれている。そして、移民の2世らも社会参加する機会が乏しい。それらの課題解決に向け、ホスト社会と移民コミュニティを繋ぐ移民ユースをエンパワーメントする方法はなにか、またホスト社会に必要な変革について考えていきたい。

講師紹介



講師：清水睦美氏（日本女子大学人間社会学部教授）

教育学博士。「日本の学校文化と外国人の子どもの教育」をテーマに、神奈川県の一ちょう団地でのフィールドワークを1997年から今日に至るまで継続。他方、外国人の子どもたちを中心とする支援を探るためのNPO（Ed.ベンチャー）の立ち上げにも関わり、実践を通して支援のあり方も模索中。

主な著書として、単著『ニューカマーの子どもたち—学校と家族の間の日常世界—（2006）』、共著『一ちょう団地発！外国人の子どもたちの挑戦（2009）』、共著『「復興」と学校 被災地のエスノグラフィ—（2013）』などがある。



講師：イ・ジョンウン氏（アジア人権文化連帯事務局長）

NGO 団体アジア人権文化連帯で事務局長を務める。アジア人権文化連帯では、市民と人権／労働／学生と人権／多様性（移住民）／マイノリティと平等／性的平等／連帯と人権の七つのことを掲げ、移住民を取り巻く人々を対象に教育活動や養成講座を行い、移民の青少年の教育活動も行っている。

パネリスト紹介



◆ ジュ・ウォンホ氏

移住民放送局の事務局長を経て、社団法人冠岳コミュニティラジオのプロデューサーをしている。



◆ チャ・ウォン氏

アジア人権文化連帯で勤務し、移民の市民活動を行う。



◆ チャン・ソワンナリット氏

難民2世。会社員の傍ら、NPO 法人外国人支援ネットワークすたんどばいみーの活動を続けている。



◆ 馬場有希氏

地域の小学校教員の傍ら、NPO 法人外国人支援ネットワークすたんどばいみーの活動を続けている。